

## 令和3年度第2回愛知県環境審議会廃棄物部会会議録

### 1 日時

令和3年10月5日（火）午前10時から正午まで

### 2 場所

愛知県本庁舎 6階 正庁

### 3 出席者

委員3名、専門委員3名（うちオンライン参加委員1名、専門委員2名）  
説明のため出席した者16名

### 4 会議の概要

#### （1）開会

##### ア 会議開催の定足数について

定足数を満たしていることが確認された。

##### イ あいさつ

近藤資源循環推進監

渡部部会長

##### ウ 傍聴人について

2名

##### エ 会議録の署名について

渡部部会長から、岡本委員及び谷川委員が会議録署名人に指名された。

#### （2）議事

##### ア 次期愛知県廃棄物処理計画の策定について

##### イ その他

特になし

事務局から資料説明し、別記のとおり質疑応答が行われた。

#### （3）閉会

## 1 議事

### (1) 次期愛知県廃棄物処理計画の策定について

- ・資料1 前回の廃棄物部会における委員意見への対応について
- ・資料2 愛知県廃棄物処理計画（素案）
- ・資料3-1 愛知県廃棄物処理計画（素案）の概要
- ・資料3-2 第5章 愛知県食品ロス削減推進計画（素案）の概要について、事務局から説明した後、質疑応答が行われた。

<質疑応答>

#### ※資料1、資料2、資料3-1、3-2の説明後

##### 【谷川委員】

1点目は、今回、国の指標にあわせて出口側の循環利用率を目標として設定していることは評価できる。計画を最初から読む人は、唐突に出口側循環率という用語が出てくると疑問に思うかもしれない。第1章1策定の趣旨の(3)の後ろか第1章2の後ろに、物質フローの模式図などを載せた上で説明するとわかりやすい。

2点目は、資料2の58ページ、施策の3廃棄物処理施設の整備促進の中に(4)脱炭素社会を見据えた整備のことが記載してある。ここがいいかわからないが、施策のどこかに出口側の循環利用率に加え、将来的に、入口側の循環利用率についても指標として位置付けして設定していく旨を記載すべきである。

3点目は、施策の4、非常災害時等の処理体制の構築であるが、地震が一番念頭にあった上での話だと思うが、様々な災害に対応する必要がある。地震以外にも洪水等の水害が想定され、災害の種類によって災害廃棄物の受け入れ等の対策が変わってくるため、それぞれ検討することを明示する必要がある。特に、発災時のストックヤードについては、災害のボリュームにより確保する必要がある。県の場合は最終処分場の確保が重要であり、洪水の場合だと特別に措置するなどの検討が必要である。

最後は、90ページ、第6章第1節各主体の責務・役割として、県の役割が記載してあるが、大所高所から書く必要があると考える。1点目の意見と関連するが、今後、入口側の循環利用率について検討していくことを明示しておく必要がある。ここは国の循環型社会形成推進基本計画を踏まえてしっかりと明示して欲しい。施策まで踏み込むためには、今の環境局の構成や、県の計画を根本から見直す必要があり、現状の廃棄物処理計画の枠組みを超えることになる。このあたりは政治的な判断が必要になることから、上の方から検討する必要がある。

##### 【事務局】

出口側の循環利用率には、トピックスという形で紹介する予定である。次回の案の段階では提示したい。入口側の循環利用率についての記載も検討していきたいが、次期計画では、

出口側の循環利用率を新たに目標として設定しており、将来的な話として、5年後の次回計画策定時においては、国の動向も踏まえ、新たな目標設定に向けて検討するという方向性については記載していきたい。

#### 【事務局】

災害廃棄物処理計画の現行計画は南海トラフを想定した計画となっている。現在、洪水、氾濫等の被害想定をシミュレーションし、計画の見直しを行っている。県としての広域的な支援として、災害の種類による対応の違いについては災害廃棄物処理計画に記載していく。

#### 【岡本委員】

トピックスについて、ごみ削減と食の安全との兼ね合いを加えられないか。プラスチックは、ある意味とても優秀な容器で、清潔に保ち続けられることが可能で衛生面に優れている。レジ袋を削減することはいいことであるが、袋を何度も使った際に、お肉の汁がついたままの袋に弁当を入れると食中毒が起こりやすいなど食の安全面への記載も必要ではないか。食品ロスの削減は、一般市民に取り組みやすく、プラスチックのスプーンやストローをやめることはとてもわかりやすいが、削減の目線だけでは、食の安全面、衛生面が不安である。

先ほど袋のような入れ物の話や、お店で食べきらず持って帰る場合の衛生面の話、最近増加しているテイクアウトについて、これまでテイクアウトに対応していなかったお店が、こうした取組をする場合の注意点等をトピックスということで記載してほしい。

#### 【事務局】

コロナ禍において、プラスチック容器によるデリバリーが増え、社会的に便利さや有用性が再認識されている。しかし、プラスチックごみが増えている実態があり、プラスチック資源循環促進法が今年6月に成立し、プラスチックの使用をいかに抑制していくかという機運が生まれている。当課の役割として、廃棄物の処理を減らすため、排出抑制の観点が必要である。

食品の衛生面等で必要なものであるというプラスチックの優位性に触れつつ、使用抑制、排出抑制していく必要があるという論調で記載していきたい。

#### 【佐藤専門委員】

岡本委員の発言のとおりではあるが、プラスチックをすべて認容するか否かの問題ではない。容器包装については過剰包装が存在するのも事実である。消費者側からすると、ものを購入した際に、ついてきてしまうものであり、廃棄せざるを得ない。衛生面のことを考えると本当に必要なものもあり、有用性と削減の両立を図ってほしい。

#### 【事務局】

過剰包装を削減するのはもちろんのこと、プラスチックの使用が妥当なものもあることを踏まえた上で、使用したプラスチックをリサイクルするように計画へ反映していきたい。

#### 【渡部部会長】

今回、食品ロス削減推進計画が1章を設けて大がかりのものとなっている。これまで施策1の3Rの促進に記載されていた施策や新たに施策7が記載されておりわかりにくい。

3Rに入っていたものを移動して特に力を入れていくというところを記載すべきである。P65、66の内容は第5章に集約していいのではないか。施策7については「第5章食品ロス削減推進計画に従って取組を進める」との記載でいいのではないか。

グラフや表に、前計画の目標年度2014年度、基準年度2019年が何度も記載に出てくる。これらは読んでいるとわかるが、このことについて、最初に説明してはどうか。

2020年度はコロナの関係で指標の数値にいろいろ変化があると思うが、この計画は2019年度を基準年度として計画を立てていることを明記し、最後の第6章の進捗の箇所にもその旨を記載すべきである。

#### 【事務局】

食品ロスの取組は、各章で重複している部分もある。重複している部分について記載内容を整理したい。

基準年度については明記しているところがないため、第1章の計画期間に基準年度等の記載を盛り込みたい。

#### 【佐藤専門委員】

出口側の循環利用率について、資料3-1の本県の現状に示すとおり、目標値に到達することなく、現状より数値が悪化している中で、目標値を現行計画と据え置きとしているが、マイナスからプラスに上向く根拠はあるのか。目標の達成の見込みはあるのか。一般廃棄物の再生利用率は、民間事業者等の回収を指標に反映できないため達成できないと聞いているが、率を上げるための施策をどう考えているのか。

#### 【事務局】

ご指摘のとおり、特に産業系の方は製造品出荷額等の経済動向による影響を受けるため、県の方でベクトルを下げるのは難しい。実現可能な目標にするのか、そうはいつでも高めの目標にするのかは、他県の状況も踏まえ再検討したい。

#### 【杉山専門委員】

今回の計画の中で、プラスチックごみや食品ロス削減の観点が盛り込まれているのは評価できる。脱炭素のように我々のライフスタイル、社会システムを大きく転換していかなくてはいけない中で、これからの5年間の計画を推進していく雰囲気作りが重要となる。消費者への呼びかけだけでなく、事業者側の取組も重要となる。77ページの取組状況でも「実施のための知識・情報が不足している」「どのように取り組めばよいかわからない」などが取組を実施していない理由であがっている。事業者への普及啓発や研修等の仕組みを充

実させなければならないがそのような対策は考えているのか。子供への普及啓発だけでなく現役世代への普及も必要である。あいち環境塾のような社会人への人材育成に長く取り組んでいるが、そうした人材を有効活用する取組は考えているのか。

#### 【事務局】

プラスチック、食品ロスの関係を今回の計画から新たに盛り込んでいる。委員ご指摘のとおり事業者向けの普及や支援に力を入れていく必要があり、事業者も対象となるような普及啓発を考えていきたい。

環境塾の卒塾生の活用については、プラスチックや食品ロスに活用できるか具体的な検討は行っていない。卒塾生の今後の活用の仕方については広い視点で検討していきたい。

#### (2) その他

- ・事務局から追加なし
- ・委員から議題追加なし